

V 財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法

時価のあるものについては、決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)を採用している。

(2)棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価方法は、最終仕入原価法によっている。

(3)固定資産の減価償却の方法

建物については定額法によっている。

器具備品については定率法によっている。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額原価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用している。

(4)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 重要な会計方針の変更

当期より、「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正)を適用している。

なお、この変更による当年度の正味財産増減額に与える影響はない。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	42,500,000			42,500,000
投資有価証券	160,130,620		25,808,880	134,321,740
小 計	202,630,620	0	25,808,880	176,821,740
特定資産				
事業積立資産	3,369,582,290	23,356,000	554,855,960	2,838,082,330
奨学生貸付金	94,874,000	18,040,000	13,065,738	99,848,262
小 計	3,464,456,290	41,396,000	567,921,698	2,937,930,592
合 計	3,667,086,910	41,396,000	593,730,578	3,114,752,332

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産から の充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	42,500,000	(42,500,000)	()	()
投資有価証券	134,321,740	(134,321,740)	()	()
小 計	176,821,740	(176,821,740)	(0)	(0)
特定資産				
事業積立資産	2,838,082,330	(0)	(2,838,082,330)	()
奨学生貸付金	99,848,262	(0)	(99,848,262)	()
小 計	2,937,930,592	(0)	(2,937,930,592)	(0)
合 計	3,114,752,332	(176,821,740)	(2,937,930,592)	(0)

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	3,308,405	504,165	2,804,240
什 器 備 品	125,161,642	29,172,322	95,989,320
合 計	128,470,047	29,676,487	98,793,560

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、以下のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	590,401
合 計	590,401